

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400093		
法人名	株式会社ケアクオリティ		
事業所名	ケアクオリティおかりや		
所在地	島田市御飯屋町9530		
自己評価作成日	令和3年 8月 31日	評価結果市町村受理日	令和3年 11月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年 10月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、日々支援を行っています。家庭的で暖かな笑顔溢れる居心地のよい環境を作れるよう、職員全員で工夫しています。また理念にもある「誰もが笑顔で過ごすホーム」を掲げて、利用者・職員ともども楽しく笑って過ごせるよう日々支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中にあり、敷地内には同じ系列の有料老人ホームがある。二階の窓から近くの川が眺められ、水量の確認もできる。玄関やユニットの出入口は、日中は施錠をせず利用者の見守りをしている。近所の方が、利用者が外にいる事を教えてくれたこともあり、地域の方の理解が得られている。介護計画はひとり一人の思いやできること、やりたいことを取り入れ、個別のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示している。その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	会社の「共に生きる、ともに歩む」に基づき、自ホームで「私たちの思い」を作り、事務所の中に掲示している。朝の申し送りやカンファレンスで読み合わせを行い職員が共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で交流が難しい状況が続いている。	今はコロナ禍で外出の機会は少なくなっているが、近隣には散歩に出かけている。ホームの近くが住宅地のため「雨が降ってきたよ」などの声かけもあり、顔を合わせれば挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や入居についての相談があった際、不安や悩みを傾聴し、真摯に対応するよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、定期的な開催は難しくなりました。行政や地域の方へ議事録をお持ちし、その際に意見収集や地域の活動についての情報を得ている。	コロナ禍により、今年度は一度も開催は出来ていない。主な出来事や事故報告等細かく記載し、自治会長や民生委員、地域包括支援センター等や行政にも配布をしている。	ご家族の参加がないようなので、今後参加してご意見をいただけるような取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録をお持ちする際に、市町村の担当者の方とお話し、相談するようにしている。今回のコロナ禍でも対応についての不明点は逐一確認するように心掛けている。	運営推進会議には、行政が必ず参加している。新型コロナ対策等の相談や、感染防止の方法などアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、身体拘束になる行為について理解している。身体拘束0に取り組んでいる。	2か月に一度は、テーマを決めて委員会を開催している。職員が実際体験をして、利用者の気持ちを理解したうえで拘束の防止に努めている。薬はなるべく使用せず、スピーチロックについては、言葉を変えて伝えている。玄関、ユニットの出入り口も昼間は開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止チェックリスト」でチェックを行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、日常生活で守られるべき権利を尊重できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を設け、詳細かつ丁寧に説明を行っている。その中で、ご家族様の不安や疑問を相談して頂き、施設入所後も安心して生活が送れるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。(活用はなし) 日々の諸々の報告の際や、ケアプランの説明時等を活用し、意向や意見を伺っている。	ご家族からの運営に関する意見はない。玄関にご意見箱を置いているが利用がなく、ケアプランの変更時や面会に来られた時に、意見を伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行っている。また面談の機会以外にも話をするタイミングを設け、良好な環境づくり・関係づくりに努めている。	半年に一度は面接を行い、意見を聞くようにしている。職員の状況によっては、随時個別に話をする事もしている。利用者の思いやケアに関してのカンファレンスを検討して、ケアにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部の方に施設を訪問して頂いている。また会議の場等でも、事業所について相談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲のある方には資格取得の為の研修を薦めている。また毎月のカンファレンス時に認知症研修や月ごとのテーマに沿った研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や委員会や研修の機会を通じて他事業所との横のつながりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話等から本人の思いを知り、要望を職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	普段の面会時に声をかけ近況を必ず伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業訪問やホームに来ていただく機会を設け、本人やご家族の不安を傾聴し、利用者本位のご支援でご家族や支援者との関わりを話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事は職員のみで行わず、利用者様と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の希望等を聞き、職員で話し合い、ご家族にもご本人の気持ちを伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で交流が難しい状況が続いているが、昔の職場の方や友人と手紙や電話で連絡がとれるよう支援している。	コロナ禍以前は、地域のお祭りや行事に参加したり、昔の友達が訪ねてくる方、外出や自宅へ外泊する方もあったが現在は、電話をかけたり手紙を書いて、馴染みの関係を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事を一緒にして頂くなど入居者様同士が関われる環境を見つけ共同生活がおくれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要性や要望に応じて、ご家族に連絡し様子を伺うようにしている。退去後も電話やメール等で相談を受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が普段の会話の中で得た情報を共有し、モニタリングの中でご本人様・ご家族様のご意向を聞き、ケアプランを作成している。	今まで野菜作りをされていた方に作り方を教えていただきプランターで野菜を作っている。食事の準備や片付けは皆で行っている。家族の意向で、できるだけ歩かせて欲しいとの希望がある場合は、職員が見守りをして歩いている。希望は、プランに取り入れ実行している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様との会話やご家族様の面会時、電話等の会話で聞き取りを行い、これまでの生活を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し、必要時カンファレンスを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをし、ご本人様、ご家族様のご意向や要望を取り入れ、ケアプランを作成している。	モニタリングと介護計画の見直しは6か月に一度、行っている。利用者、家族の思い、職員の意見を聴き話し合いをして介護計画を作成している。体調の変化や急変時は、随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から問題点や様子を共有しプランの見直しが行いやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要性がある場合、柔軟に対応できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域のイベントも軒並み中止となることが多いが、民生委員の方や町内会長の方との交流の際、情報を仕入れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様希望のかかりつけ医を確認している。変化があった際はすぐに対応し、適切な医療を受けられるよう努めている。	入所前のかかりつけ医に継続して受診している。家族が遠方などで受診できない場合は、在宅療養診療との契約をご家族にいただき、現在7名の方が職員が付き添い受診している。緊急時は、救急車で総合病院へ受診する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録等を活用し、必要に応じて指示を仰ぎ緊急時には電話での対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中可能であればお見舞いに行き、病院関係者と情報交換を行っている。退院時は看護サマリー・診療情報提供書を依頼し、スムーズにホームでの生活に戻れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応について説明し、ご家族様の意向を伺っている。ご本人様の様子が変わった際は再度意向について確認をとるようにしている。	看取りに関しては、入所時に確認を行っている。看取りが近くなったときは再度、家族と話し合いを行い、施設での看取りを希望された場合は看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について手順書を定め勉強会を実施し、冷静に行動できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・日中両方とも火災・水害・地震を想定した防災訓練を年2回実施している。	年2回、火災、水害、夜間、日中を想定して訓練を行っている。消防署にも連絡をして参加していただくこともある。非常食、水は一週間分を備蓄してある。衛生用品も多めに準備している。	川が近く水害の心配があり、夜間帯は職員も少ないので、自治会長、近隣の方にも防災訓練に参加していただき、緊急時の協力体制を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格や性格を理解し、ご本人の気持ちを尊重するよう心掛けている。	排泄時には、プライバシーに配慮し言葉がけをしている。トイレのドアは転倒の危険のある方もいるので、外から見えないよう配慮し、職員が見守りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の気持ちに耳を傾け、声掛けを行い、ご本人に意思確認をし判断して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを守り、ご本人の気持ちに配慮したご支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、2ヶ月に1回の散髪を行う等、支援している。季節に合った衣類の交換等、ご家族に協力を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や後片付けを職員と一緒にしている。食事のペースもその方に合わせてゆったりとした時間の中で楽しめるよう支援している。	食事は、施設で毎回作っている。特に献立は立てず、利用者の食べたいもの、冷蔵庫にあるものなどを職員が考えて調理している。誕生日には、その方の希望のものを提供して喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせた量の提供を行っている。水分をあまりとられない方には種類の変更などをし、健康への配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声掛けにて自己にて行って頂くよう介助の必要な方には、できる部分は自己にて行って頂くことを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを知りその方に合わせたケアを行えるよう取り組んでいる。またパット類についてもその方の睡眠の様子も考慮し、通気性や吸収量などその方に合わせたものを選定している。	トイレで排泄が可能な方は、トイレでの使用を心掛けている。現在おむつ使用は3名のみで、それ以外の方はその方に合わせ、負担のないパットを使ってトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を確保する為、ご本人の好みに合わせた飲み物の提供やヨーグルト等を取り入れるようにしている。また毎日体操するなど規則正しい生活を送れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者が自分の入りたいタイミングで入浴できるよう配慮している。またバスクリン等も活用し気持ちいい入浴ができるよう心掛けている。	週2回、3回は入浴している。一度誘っても入ってもらえない方には、しばらく時間をおいて誘導している。入浴剤を使うなど、気持ちよく入れる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、気持ちよく睡眠がとれるよう頭や体を使ったレクリエーションを行うようにしている。日中、傾眠が強い方には自室で休む時間を設ける等、工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書きを閉じ確認できるようにしている。薬が変わった際は様子を詳細に記録に残すよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味・嗜好に合わせたレクリエーションを定期的に行っている。(塗り絵、読書、俳句、遠泳、編み物等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、受診以外の外出については難しい状況が続いている。車外に降りないドライブや事前に混雑していない時間帯を調査し、季節の花の鑑賞等を行っている。	コロナ禍以前は買い物に出かけていたが、現在は行っていない。近くの人が少ない場所へコスモスを見に散歩に行ったり、車に乗りドライブを楽しんでいる。ご自分のふるさとに行き、とても喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、外出した際は買物は実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やリモートによるご家族との会話の支援を行っている。また手紙によるやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる装飾も行っている。また湿度、温度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めている。	季節を感じられるように、壁面に飾る作品を利用者と製作しており、季節ごと取り換えている。明るくなるよう、習字は赤字で書くなど工夫をしている。コロナ禍のため窓を開け喚起に努め、室内の温度、光、臭いにも気を付けて調整を行い居心地のよい空間作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性も考慮し、座席の配置も変更している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使われていた家具やテレビや写真等、馴染みの物を居室内に設置している。	家具、仏壇、絵や写真、寝具等は持参され居室においている。転倒の危険のある方もいるので、配置の工夫や立ち上がり用のタッチアップの使用をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口にお手製の名前の表札を設置している。またご本人にとって生活しやすいよう居室内の環境づくりに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400093		
法人名	株式会社ケアクオリティ		
事業所名	ケアクオリティおかりや		
所在地	島田市御飯屋町9530		
自己評価作成日	令和3年 8月 31日	評価結果市町村受理日	令和3年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年 10月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人一人が違った生活歴や認知症状がある中で、それぞれの方が生き生きと共同生活を楽しめるよう日々、支援を行っています。入居前に行っていた趣味について、入居後も継続できるよう支援したり、一人一人の個性を捉えた上で、入居者様全員が安心して生活ができるよう環境の工夫をしたり、常日頃から職員全員で入居者様全員を思い、日々柔軟に対応を行っております。

コロナ禍により外出の支援が難しくなりましたが、事前に下調べをしたうえで、人のいない時間帯を狙っての外出を行ったり、散歩のコースの工夫や、定期的なドライブの実施等、外出回数を極力減らさないよう心掛けております。ご家族様との交流についても新型コロナウイルスが流行して直ぐ、面会の事前予約性の導入、リモートによる面会を導入する等、感染対策を行いながら、ご家族様との交流の機会を減らさないよう心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ご利用者の思いに寄り添った介護」「地域の皆様から愛されるホーム」「誰もが笑顔で過ごせるホーム」を理念とし、共有し、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、日々の外出支援が難しくなりましたが、受診の際等、地域の方と少なからず交流は行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や入居についての相談があった際、不安や悩みを傾聴し、真摯に対応するよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、定期的な開催は難しくなりました。行政や地域の方へ議事録をお持ちし、その際に意見収集や地域の活動についての情報を得ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録をお持ちする際に、市町村の担当者の方とお話し、相談するようにしている。今回のコロナ禍でも対応についての不明点は逐一確認するように心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な委員会の開催・身体拘束廃止・虐待防止の為のチェックリストを実施している。また、体験型の研修を実施し、自分で思うように本当の気持ち伝えられない入居者様の思いを汲むケアを心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・虐待防止の為のチェックリストを実施し、研修等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、日常生活で守られるべき権利を尊重できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を設け、詳細かつ丁寧に説明を行っている。その中で、ご家族様の不安や疑問を相談して頂き、施設入所後も安心して生活が送れるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。(活用はなし) 日々の諸々の報告の際や、ケアプランの説明時等を活用し、意向や意見を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行っている。また面談の機会以外にも話をするタイミングを設け、良好な環境づくり・関係づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部の方に施設を訪問して頂いている。また会議の場等でも、事業所について相談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲のある方には資格取得の為の研修を薦めている。また毎月のカンファレンス時に認知症研修や月ごとのテーマに沿った研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や委員会や研修の機会を通じて他事業所との横のつながりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時や事前面談の際、ご本人と必ず顔合わせを行い、話を伺うようにしている。また、ご本人が本心で会話ができるよう面談を行う環境にも配慮するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、入居の相談があった際から、ご家族が困っている事、不安な事、希望についてご意向を伺い、ご家族の気持ちを汲み取ることができるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族にとって何が必要かを見極めるよう努めている。ご本人の発言や様子等から、必要な支援があった際にはご家族と連絡を取り、相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事やレクリエーションを行い、信頼関係を構築するよう努めている。また、感謝の言葉を必ず伝え、介護される一方の立場ではなく暮らしを共にする物同士の関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族様の意向を確認する際や、定期的な連絡の際、思いを汲み取るよう心掛け、ご本人とご家族の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、交流の部分で課題が多くできたが、市内の方については面会の事前予約性を設け、玄関にてビニールシート越しの面会を継続、県外の方についてはリモートによる交流を早い段階から支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の認知症状、性格等を考慮し支援を行っている。必要に応じてコミュニケーションの仲介や環境整備を行い、入居者様同士がより良い関係になれるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要性や要望に応じて、ご家族に連絡しご様子を伺うようにしている。退去後も電話やメール等で相談を受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回ケアプランの作成時やケアプランの書き換え時、ご本人と直接交流することでご本人の意向を汲み取れるよう努めている。また重度で本心が不明な方はご家族に連絡し、ご本人が過去に発言していた内容を聞き出し、ご本人の本心を判断するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の際にご本人に直接伺ったり、ご家族様からもその方の生活歴を伺い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	再アセスメントやモニタリング、カンファレンス等での意見収集によって、その方の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族とはプラン変更時にお話しを伺っている。また医療連携看護師や主治医と情報共有を行い、健康への配慮についての意見を伺っている。職員間では毎日の申し送りやカンファレンスで話し合いを行い、ケアプラン作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段からケース記録に詳細に記録に残すよう心掛けている。また、ご本人の発言等気になる様子があった際もしっかりと記録に残し、カンファレンスの機会等に職員同士で話し合い、ケアプランの実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要性がある場合、柔軟に対応できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域のイベントも軒並み中止となることが多いが、民生委員の方や町内会長の方との交流の際、情報を仕入れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が入居前より通院されていたかかりつけ医と入居後も関係が継続できるよう努めている。また、変化があった際はすぐに対応し、適切な医療を受けられる様に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録等を活用し、日々の生活の中での変化や心配な点を報告し、指示を仰ぐようにしている。 また医療連携看護師には受診記録を確認してもらい、指示を出してもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	可能な際はお見舞いに伺い、現場の看護師から情報を得て、今後の配慮についても相談している。退院時は看護サマリーを依頼し、退院後スムーズにホームで生活できるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期のご家族様のご意向を伺っている。入居後、年月が経過し、ご本人の様子が変わった際も意向が変わっている可能性がある為、再度確認をとるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿った対応を行っている。毎週の医療連携時、必要なケア・今後起こり得る状況についても情報を看護師に伝え、有事の対応について確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・日中、火災や地震や水害を想定した防災訓練を年2回行い、対応についての反省点を情報共有し、次回に活かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助の際、声掛けを必ず行い、ご本人の気持ちを尊重するよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の気持ちに耳を傾け、声掛けを行い確認をとることで、ご本人が自己決定できるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを守り、ご本人の気持ちに配慮した支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、服をえらんで頂いたり、選択が難しい方には職員が選んだものを声掛けし、着て頂いている。お化粧をされる方は化粧品の残量を確認し、なくなる前にご家族に依頼しもってきて頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や食器拭き・テーブル拭きを職員と一緒に、ペース等もその方に合わせゆったりとした食事の時間を楽しめるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた量の提供や状態に合わせ、食形態や食器の位置等にも配慮を行っている。水分をあまりとられない方には種類の変更や時間の変更を行ない、健康への配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行う際、自立の方は声掛けをし、自己にて行って頂くよう心掛けている。介助が必要な方には、できる部分は自分で行って頂くよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせたケアを行えるよう取り組んでいる。またパット類についてもその方の睡眠の様子等も考慮し、通気性や吸収量など、その方に合わせた物を選定している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や足の運動を毎日必ず行っている。食事についても水分量の確保や、ヨーグルト等の乳製品を取り入れるようにしている。便秘症の方には必要に応じて主治医に相談し、生活のアドバイスや薬を処方して頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けの反応塔、利用者が自分のタイミングで入浴できるよう配慮している。またバスクリン等も活用し、気持ちいい入浴ができるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に気持ちよく睡眠がとれるよう日中は体を動かすレクリエーション・頭を使ったレクリエーションを行うようにしている。日中傾眠が強い方には自室で休む時間を設ける等、工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書をとじ、確認できるようにしている。薬が変わった際は様子を詳細に記録に残すようにし、支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴や趣味・嗜好に合わせたレクリエーションを定期的に行っている。(生け花、飾りづくり、将棋、土いじり等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、受診以外の外出については中々難しい状況が続いている。車外におりないドライブや、事前に混雑しない時間帯を調査し、季節の花の鑑賞等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、外出した際は買い物は実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の支援等行っている。またコロナ禍の早い段階からリモートによるご家族と顔を合わせながらの会話も支援しており、職員が付き添い、コミュニケーションの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に配慮し、室温の調整を行っている。また壁面や作品についても季節毎に変更をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性も考慮し、机の配置の変更や座席の配置も変更している。また家事を行う際も相性を考慮し、お願いをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活が送れるよう、使い慣れた家具や写真等を居室内に置いて頂いている。転倒やケガのリスクが予測される場合にはご家族様やご本人様と相談して対応を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口にお手製のお名前の表札を設置している。またご本人にとって生活しやすいよう居室内の環境作りに努めている。		